

キンセイラン

絶滅危惧IB類(EN)

Calanthe nipponica



キンセイラン(愛知県 10.6/28)

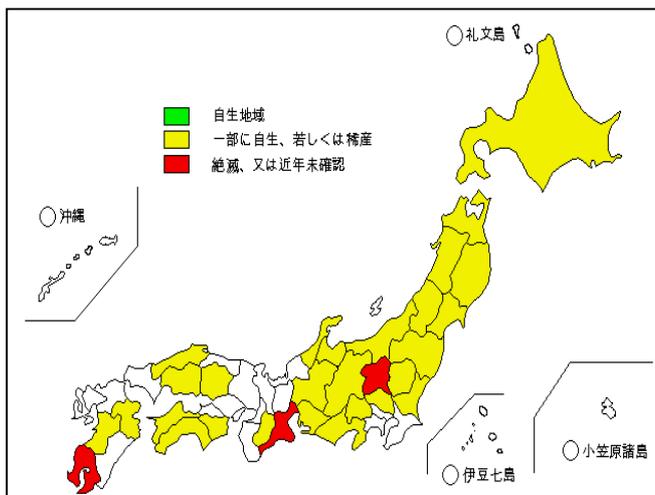
全国の冷涼な山地に自生する地生蘭です。エビネ (Calanthe属)の仲間で、朝は霧が出るような高湿度でありやや標高の高い夏場でも涼しく感じるくらいの杉林などに自生します。

好む自生環境はナツエビネやキノエビネ、コアツモリソウなどと似ております。

草姿はエビネの中では個性的で、下記のような特徴があります。

- ①葉は細くて全体的にやや貧弱。
- ②葉数はジエビネに比べて多く3~10枚程度。
- ③花期は6~7月
- ④腐葉土の中に浅く根を張り、バルブも貧弱
- ⑤黄緑色でシャープな花をまばらに複数輪咲かせる。
- ⑥1芽から複数の花茎を伸ばすことがある。

うっそうとした樹林下で貧弱な草姿でもシャープで気品に満ちた花を咲かせることから、「最も美しいエビネ」と呼ばれる非常に観賞価値の高い蘭です。



全国の冷涼な山地に自生します。



キンセイラン(愛知県 10.6/28)

但しあくまで自生地で毅然と咲き誇る姿が美しいのであって、鉢植えにしてしまっただけは貧弱な草姿だけが強調され観賞価値など皆無です。しかしこの自生地での美しさに惹かれ山野草としての人気が高く、人目につく場所では盗掘が後を絶ちません。群生を作らず間隔をあけて樹林下に点在し、かつ成長も遅い蘭なので、1株2株の欠落でも自生地に大きな影響を与えかねない状況まで追い込まれています。乾燥と夏の暑さを嫌う蘭なので、都心部ではまず育てられません。自生が見られるほぼ全ての県で絶滅危惧種に指定されるほど危機的な蘭なので、皆さまも好運にも山野で本種に出会えたならばそっと見守ってあげてください。

観賞価値が高く野草店でもしばしば目にしますが、性質が弱く成長も遅いため商用生産はほぼ行われていません。ゆえに販売されているものはまず盗掘株なので気軽な購入はお控え下さい。鉢植えで見てもただの貧弱なエビネです。

栽培も困難です。個体の維持は出来ても低地では年々痩せていき枯死してしまう事が多いです。野草店の棚の下で枯死している固体を見るとやりきれない気持ちになります。

水捌けのよい用土に腐葉土を多めに加え、十分な灌水と通風、夏場の暑さ対策、直射日光を避けること、冬場の完全凍結を避けることを基本に丁寧に栽培すれば毎年開花させることも可能ですが、自ら増殖させて始めて「栽培成功」なので安易な栽培はおやめ下さい。

増殖はもっぱら自然増殖、バルブ吹きかしに頼ることになりますが、通常栽培下ではとても望めるものではありません。



キンセイラン(愛知県 10.6/28)



キンセイラン(愛知県 10.6/28)

エビネ類にはかなりの種類があり、大きく分けて春咲き種と夏咲き種があります。海外には落葉種もありますが、日本は全て常緑種です。代表的なものとしては、春咲きのエビネでは基本種の**ジエビネ**、**キエビネ**:大型種。鮮やかな黄色が特徴です。**クリシマエビネ**:暖地性で桃色。**サルメンエビネ**:寒冷地性で黄茶色。**ニオイエビネ**:伊豆諸島特産。強い芳香が特徴。**キソエビネ**:冷涼な山地に自生。うつむき加減に花をつける。夏咲きのエビネでは、**ナツエビネ**:全国の冷涼な山地に自生し花色は青。**オナガエビネ**:南方系で濃紅色。**ヒロハノカラン(ダルマエビネ)**:南方系でリップが大きく純白。**ツルラン**:南方系で白花。秋咲きとしては**トクサラン**:南方系で**ガンゼキラン**のように木立性で黄色い小花を咲かせる。などがあります。詳細はそれぞれのページで紹介致します。

また、ジエビネだけとってみても数多くの地域変種があります。沖縄に自生しリップの大きい**カソウダケエビネ**や鹿児島**のサクラジマエビネ**、徳之島に自生する**トクノシマエビネ**や**ハノジエビネ**がこれにあたります。また、同じ地域に数種類のエビネが自生している地域では、自然交雑種も多く確認されております。

【**タカネ**:ジエビネ×キエビネ】

【**ヒゼン**:ジエビネ×クリシマエビネ】

【**ヒゴ**:キエビネ×クリシマエビネ】

【**イシツチ**:ジエビネ×サルメンエビネ】

【**コオズ**:ジエビネ×ニオイエビネ】

※人工交雑種は洋ランのように星の数ほどのネーミングがつけられている為説明は割愛いたします。



キンセイラン(愛知県 10.6/28)